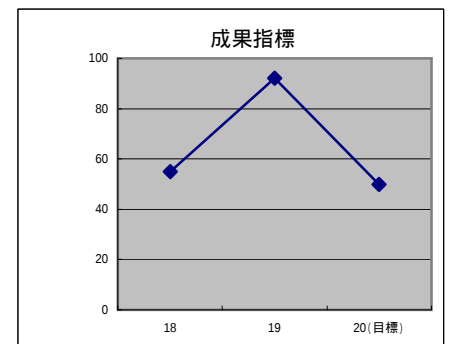
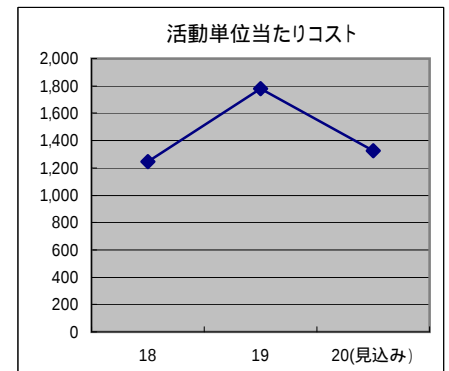


事務事業名		子育て支援センター管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	3	民生費	
					項	2	児童福祉費	
					目	8	子育て支援費	
					事業	2	子育て支援センター施設管理運営	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち					
	施策(節)	1	子育て支援					
	施策の方向	(2)	地域での子育て支援の充実					
関連する計画等				羽曳野市次世代育成支援行動計画		作成部署 保健福祉部子育て支援課		
				連絡先		072 - 958 - 3308 内線		
事業の目的								
対象(誰を・何を)								
子育て中の市民(保護者)								
意図(どういう状態にしたいのか)								
さまざまな子育て支援のネットワークを図る。								
事業の内容								
子育ての不安・悩みをもつ保護者の相談に応じ、地域に於けるさまざまな子育て支援の機関や団体、個人の活動の場を提供する。								
みんなの広場、年齢別親子教室、子育て講座、サークル支援(人的・物的)、相談活動、活動の場の提供、春・夏の色々な親子教室開催、あそびの広場、おでかけ広場(ふるいち・むかいの・ほのぼ 3センター協働)								
根拠法令等		次世代育成支援対策推進法、羽曳野市立子育て支援センター設置条例						
事業開始時期		☐ 昭和 ☐ 平成 17 年 月開始 ☐ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度						
事業開始時からの状況変化		みんなの広場・サークル活動・広報での事業案内等の利用の増加している。また、相談活動、サークル、サロンへの人的派遣が増加している。						
市民や議会の要望								
実施手法		☒ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 外郭団体委託 名称 ☐ 委託内容 警備業務など ☒ 民間委託						

区 分		18年度	19年度	20年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		2,172	2,548	
人件費【2】 (千円)		34,680	43,800	39,800
職員数	正規職員	4.00 人	5.00 人	4.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	2.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.60 人	1.00 人	1.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		36,852	46,348	39,800
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)	7,846	6,658	0
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	29,006	39,690	39,800
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
利用人数(自由来所、主催事) 人		29,583	26,014	30,000
活動 (支援、派遣等) 件		88	137	140
相談活動 件		1,091	248	250
活動単位当たりコスト(【A】 / 【B】)		1,246 円	1,782 円	1,327 円
市民1人当たりコスト(【A】 / 人口)		306 円	386 円	332 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	1日の平均利用人数(人)	式) 延人数 ÷ 開所日数	開所日数に対する平均の利用人数	目標	50	50	達成率(%)
				実績	55	92	184.0%
	定員を設けた主催講座の参加率(%)	式) 実参加人数 ÷ 募集人数	主催講座のニーズ	目標	90	90	達成率(%)
				実績	92	276	306.7%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	子育ての不安解消、少子化対策への効果、子育ての孤立化を防ぎ虐待防止に繋げる。
				○		○	○				

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	子育て中の保護者が友だちをつくり、楽しく子育てをすることで、不安がやわらぎ、色々な子育ての情報を手にして学習し視野を広げる。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐		
	緊急性が認められる	☒	☐	☐		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	市で行う他の事業で重複することは連携していく。協働することにより情報提供の窓口が増え、より多くのニーズに沿った人に広く参加を呼びかけることができる。効率的に情報を提供することができる。	
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	本市次世代育成支援行動計画(はびきのこども夢プラン)において、地域子育て支援の充実・拡充は重点プロジェクトの1つに位置づけている。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	アンケート・感想などを集約して利用者の声を反映している。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	平成17年の開所より、利用人数や相談件数は伸びている。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部 局 評 価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	支援については、サークル(保護者・支援者)を対象にニーズに合った支援を行えるようになってきた。部屋の貸し出しによる、場の提供でサークル活動の把握ができたり、サークル同士の協働への支援に結びついて輪が広がっている。講座についてはニーズにあった講座を開催でき、応募が定員を超えることも多く、受講率は高い。支援者向けの講座の受講により地域の子育て力の向上につながっている。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	

子育て支援につながる保健センター、市民大学・教育委員会などとの連携を図る。
地域に沿ったきめ細かい支援を行う。(サークル支援の充実を図る。サロンへの支援)
保護者の孤立化を防ぐため、『みんなの広場』事業と広報活動の充実を図る。土曜日開所の検討。